

動物遺存体の調査(6)

埋蔵文化財センター

本年度行った動物遺存体の調査のうち、主要なものは以下の通りである。

1. 千葉県佐倉市大作古墳出土のウマ(2)

千葉県文化財センターの依頼を受けて、大作古墳の周溝から出土した馬具を装着したウマの調査を前年度に引き続き行った。骨質部は全て腐朽して残っていなかったが、上下の顎歯のエナメル質が遺存しており、轡をはめたまま葬られたことがわかった。同時に出土した鞍金具と顎歯および轡との位置関係からこの馬が馬具を装着したまま、首を切られ、胴部をさかさまに落し込まれ、さらに腰の付近に切り落とされた首が落としこまれたことが推定できた。『日本書記』の「大化の薄葬令」には、亡き人の馬を殉殺することを禁止する条文があるが、これほど、古墳の葬送儀礼に伴う馬の殉殺の様子が復原できたことは稀有な例であろう。

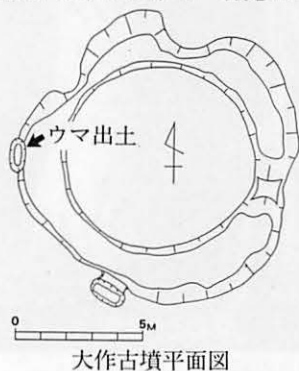
松井章「大作遺跡31号墳出土のウマ」『大作遺跡－佐倉市第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1990千葉県文化財センター pp. 207-211.

2. 和歌山県和歌山市田屋遺跡出土の動物遺存体

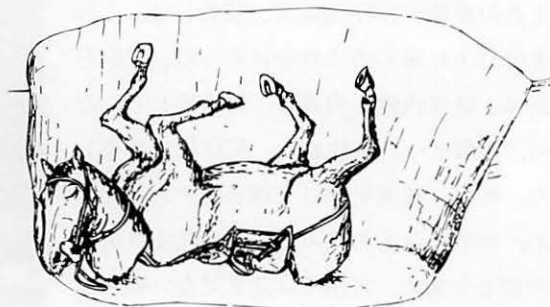
和歌山県埋蔵文化財センターの依頼を受けて紀ノ川下流域の5世紀ごろの集落である田屋遺跡から出土した動物遺存体の調査を行った。5世紀後半の溝から出土した動物遺存体のなかから、オオカミ・イノシシ・ニホンジカ・テン・ウマなど169点が同定できた。しかし、この段階でも出土した動物遺存体に占めるウマの比率は3点のみとたいへん低いこと、ウシが皆無であることがわかった。こうした一般の集落ではウシ・ウマの普及は5世紀段階でも、まだ限られたものであったのだろうか。

3. 貝塚データベースの作成(2)

1986年度に開始した貝塚データベースの作成は、これまで奈良国立文化財研究所所蔵図書を中心にワークシートを作成し、国立教育研究所、及川昭文のもとで入力を行ってきた。その結果、国内約3000遺跡の貝塚・洞穴および、全国動物遺存体出土遺跡を集成した。今後、各地の研究者に協力を呼びかけて一層完全なものにして、なんらかの形で早く公開したい。(松井 章)



大作古墳平面図



大作古墳から出土したウマの殉殺復原図